

# ATCAインターナショナル

## アジア先住民族支援

日本・ヨーロッパ  
2010年、夏

ATCAインターナショナルの日本とヨーロッパの支援者の皆様へ

日本もドイツも同じく、長くて寒い冬と春が終わって、夏の晴天と暖かさが嬉しいですね。私は3月から5月までの2カ月間、タイ、ラオスとミャンマーにいましたが、43度を超える気温で異常に暑い日々が続いていました。これはもう楽しめる程度を超えていますね。今は、この地域にも雨季が始まり、住民のみなさんが暖かいシャワーや豊富な水を楽しんでいるようです。私が滞在したときは、大きなMekong川まで、河川が完全に枯れていましたが、今はまた水位が18メートルレベルまで回復してくるでしょう。

まずは、私がおもった頻りに皆様へのお手紙を書けなかったことを心からお詫びします。我々の数多くの進行中のプロジェクトの情報を皆様にもっと提供すべきでした。ATCAインターナショナルは少しずつ活動を減らしているように見えるかもしれませんが、実は、我々はとても活発に動いています。オーストリアのMargareta Weisser Fund (Kikin) も同様です。

報告をしなかった理由は、日々増えるプロジェクトの仕事や、アジアのプロジェクトを回るたくさんのお出張もありますが、一番大きな要因はボランティア不足にあります。私の友達のほとんどは、変わる事のない、永遠と続くアジアでの仕事や深刻化する問題に疲れてきたか、状況が好転する希望を捨ててしまいました。しかし、希望の余地は十分あります。

アジアの遠隔地に住んでいる人々の極めて困難な状況を知っている一方、少しのお金があれば小さな子供たちが救われることも知っています。この活動を通じて多くの喜びや充実感を得られます。私は絶対にあきらめません。ヨーロッパにいる数人の誠実な友人もこの確信を持って、大きな寄付で支援していただいております。

アジアでの人々の支援にはデスクワークもたくさん必要です。費用が5000~50,000円のミニプロジェクト、飲み水のための小さなポンプ、簡単な幼稚園の設立、畑仕事の道具、時には教科書数冊でも、大きなプロジェクトと同じくらいの作業が必要です。しかし、これらのプロジェクトは、だいたい村人や学生たちが自分で実施しています。購入するためのお金がない資材だけがが必要です。5円ランチも同じです。私たちはお米を寄付して、地域の人々は足せるものを足す。これには、遠くから電子メールやファックス、電話などによるきめ細かい調整が欠かせません。直接村を訪れて、何が必要なかを話し合っただけでも決めることもあります。

全世界でも、とても大変な時代を迎えています。数々の危機が将来に関する不安を仰ぎ、夜はぐっすり眠れないときもあることでしょう。経済情勢であれ、とんでもない政治であれ、将来への不安であれ、私たちは、ため息をつく理由がたくさんあります。

しかし、アジアの山岳地の民族の生活を見ていると、自分の問題が小さく見えます。彼らの生活がすごいスピードで破壊が進んでいます。私たちはいつでも水道からお水を取れます。電気も暖房もあります。われらの国々は平和で自由です。健康な生活を送り、子供たちが勉強してよい教育を受けてから大人になります。

先住民族の人たちの生活は、経済のグローバル化に伴って著しく悪化してきました。グローバル化は、世界の人々のほんの一部を豊かにし、その他の大勢の人たちを貧しいまま放置しています。皆様がきっとこれらの問題をご存じだと思います。

今日は、それより、我々の活動の明るい面に目を向けたいと思います。感謝と喜びを感じながら、今まで、アジアの山岳地の見捨てられた民族の人々のために皆様が今まで貢献したことを思い出します。子供たちや少年、少女たちに希望を与えてきました。皆様の寄付のおかげで、数千人の子供たちが小学校に通うことができました。また、女子も大勢高校に通うことができました。これは数年前にはまだとても珍しいことでした。今は、先住民族の学生の相当な人数が短大や大学に通うようになりまし。その民族の人々にとっては初めてのことです。遠隔地に住んでいる先住民族は、安定した将来のために良質な基本教育が不可欠です。しかし、この子供たちは、生まれた時から弱く、日本やヨーロッパだったら数円で直せる軽い病気の犠牲になりがちです。そのため、子供たちのその弱さや栄養不足を解消しようとしております。

**ATCAの日本での5円ランチキャンペーンは、  
アジアの多くの子供たちの命を救うことができました。**

過去2年間、ラオス、インドネシア、ミャンマーやインドの東北部に多くの幼稚園や小学校を作って、遠くの村の児童でも通学できるように寮も作りました。Luang Namtha州の知事はつい最近、私、それと私の活動を支援してくださいすべての支援者を表彰してくださいました。私はこれでラオスで7回表彰されてますが、今回は一番です。とても光栄に思っております。我々の実績のリストも添付されておりました。私のための祝杯は三日間続きました。ラオスでのその幸せな3日間に皆様と一緒に参加できていればと、心から思っております。

**学生たちの寮のための食糧支援**を続けることが今の緊急課題です。先住民族の6~17歳の子供たちは、遠く離れた村から小さな町にある学校に来ます。親戚も両親も近くにいない彼らは、長い学年の間生活の支えがありません。ひとり親の子供や孤児もよくいます。これも5円ランチが資金を出しているプロジェクトです。300円の学生たちが通っている学校は、一か月に1トンのお米が必要で、この前の4月に訪れた学校は、小さな台所にはお米が少ししかなく、他の食べ物も一切ない学校が数件ありました。子供たちが後8週間も学校に通うはずなのに。毎日何を食べればいいのでしょうか？現地の自治体はこれをほとんど気にしていないようです。一番大きな寄付は、教師たちからです。教師たちも貧しいですが、寛大な心を持っています。お米の値段は最近とても高騰しています。数年前、お米1トンに220ドルを払ったのに対して、今は600ドルです。これより多くのお米を買えるわけがありません。お米が全く手に入らないこともあります。世界がバイオガソリンのために穀物を栽培している場合、または、この場合みたいに、中国の企業がどこもゴムを生産する畑に変える場合、一番最初に栄養不足になるのは先住民族の子供たちです。

ミャンマーやベトナムでは、学校や寮の近くで、小規模の農業の自立支援プロジェクトを支援しています。田んぼを購入することもあります。そうすれば、学生たちは自分の食物、特に野菜や根菜（ジャガイモ、薩摩芋など）を自分で栽培して、鶏や豚を育てたりすることができます。2年か3年もすれば、その学校は食糧面で自立できます。こういう学校や孤児院が通常必要とするのは、立ち上げに少しだけの資金です。

去年から、私のプロジェクトリストでは、進行中の5円ランチと一緒に水を一番優先度の高い項目にしました。アジアの山岳地の数多くの学生寮、孤児院や学校のほとんどには、**きれいな飲み水はともかく、お水自体はありません**。子供たちは、授業に参加する時間と比べて遠く離れた川からお水を運んでくるのに毎日長い時間をかけています。そして学校が終わったら、また家族のためにお水を運びます。

現地の状況にも依りますが、こんな対策が必要です：山にある水源からのお水のタンク、ウェルまたは水道システム。しかし、ほとんどのところには森が消え、水も消え、水を撮る唯一の方法は雨水を集めることです。お水もあれば、トイレの建設もできます。ここ1年間、いくつかの水道システムの資金援助をしてきました。想像してみてください：児童数が最低350人の学校にお水もトイレもない状況！村人たちは、セメントを購入したり職人に依頼を出す資金がありません。

ミャンマーでは、最近Caritas Yangon (Karuna Myanmar) がリードしている大規模で全国的なプロジェクトでの協力が増えてきました。数年前、女性フランス科会の一員と出会いました。彼女は、村に実施される全国的なプログラム「Early Childhood Care and Development (ECCD)」のリーダーとして活躍している。このプログラムは幼稚園の教員や母親たちの訓練も含んでいます。しかし、継続的な給食プログラムのための資金、また、資材や教材のための資金はすべての村や自治体で不足しています。皆様の温かいご支援の元、また、私自身の基金も入れて、私はこのプログラムの一部を支援する予定です。まず、学年のスタートとなる9月1日まで20軒の幼稚園を、ミャンマー北部の2つの地域に設立するつもりです。子供40~60人が通える幼稚園1軒につき、一年間でわずか9万円もあれば大丈夫です。現在、ATCAは5円ランチプログラムだけでなく医療や教材、資材やゲーム、教員の訓練も含めて18の幼稚園を支援しています。

**かつては強かった5円ランチを復活させる必要があります！  
引き続き、暖かいご支援・ご協力をお願いいたします。**

ミャンマーの遠隔地には、様々な政治的な問題や自然災害が家族たちの生活を破壊させる中、以前よりも多くの子供たちが餓死の危険にさらされています。より多くの寄付が必要です。2年前は、かつて「アジアの米袋」として有名だったIrrawaddy川の河口周辺がサイクロンNargisの威力によって絶望的な被害を受けてしまいました。この人たちはいまだに助けを待っています。2年間連続で、ネズミの異常繁殖でミャンマーのChin Stateの北部、南部とも畑の食糧が全滅してしまいました。タイやバングラデシュとの境界線沿いの地域では、紛争や、民族による食糧や土地をめぐる戦い、また、ミャンマーの軍隊のそれに対する厳しい対応によって数1,000人の人たちが難民になります。食糧、飲み水、医療、国際的な注目や支援、何もありません。「John Rambo」という映画は数年前この紛争の残酷な現実を発信しました。その結果、Sylvester Stalloneさんは自らこれらの難民たちを資金面で支援しているようになりました。

私が本当に遠隔地にある場所まで行かなければならないのはこのためです。これらの場所のほとんどはすでに37年前から知っています。この長い年月をかけて、多くの民族の信頼を得て、深い絆を作り上げることができました。これらの国では、手紙、電子メールやめったに見つからない電話などで遠くから仕事ができるわけがありません。また、これらの国々の各政府は我々の通信をととても制限しています。協力してくれるパートナーも私たちも、危険との顔合わせが続いています。

2009年には、265,000 USD (約26,500,000円)

分の費用をプロジェクトの資金に使いました。

この金額には、私が個人的に負担している経費や旅費が入っていません。

この資金の

16%は 日本やヨーロッパのATCAインターナショナルの支援者  
からいただきました。

84%は、私の個人的な基金、Margareta Weisser Fund が出資しています。

今年、350,000USD (約29,863,900円) 分の要求をいただいています。

まだ7月なのに。すべてがとても実施する価値のある、必要とされるプロジェクトです。

日本とヨーロッパで支援者を見つけて、この金額の10%以上の寄付を集めることを願っております。残りの90%は私の個人的な貯金から出資するつもりです。その貯金も、Margareta Weisser Fundもおそらく来年までに消えると思います。

日本の支援者の皆さまはATCAおよび我々の5円ランチキャンペーンのことを覚えていらっしゃるって、もう一度寛大な心で寄付して下さると信じております。

Citibankの神戸支店735での口座番号は変わっていません。

預金口座番号 5537371 です。

下記のURLにも詳細な情報があります。

[www.mwatca.com](http://www.mwatca.com)

9月末まではドイツのオフィスで働く予定です。その後、インド北部、ミャンマー、ラオスやタイへの3カ月間の出張を予定しております。

この長年にわたる皆様からの誠実なご支援に対する感謝の気持ちを表現する言葉もありません。皆様の寛大なお心遣いは、皆様の人生を幸せにすることを祈っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

margareta weisser

Head of ATCA INTERNATIONAL

and

Margareta Weisser Fund for Indigenous Peoples in Asia - Salzburg

July 1, 2010